

日光御成道の将軍社参と大門宿本陣表門（長屋門）

大門宿本陣表門の前には日光御成道が通っている。この道はかつて鎌倉街道中道（上道あり）と呼ばれていた。

鎌倉と各地とを結ぶ道路の総称だが、武士たちが「いざ鎌倉」と、馳せ参じた軍事的要素の街道であったといわれ、その道幅は 2M 程であったという。

そのルートは古河→栗橋→岩槻→鳩ヶ谷→板橋→世田谷→荏田→鶴ヶ峰→上永谷→鎌倉を、通過し鎌倉へ向かった道とのである。（HP 歩く旧鎌倉街道・中道、古河市→鎌倉より）

家康の菩提寺が日光に寛永 13 年（1636 年）日光東照宮に建立された後、寛永期（1624-1644 年）以降、日光社参にこの道を利用するのが慣例となった。将軍御成りになる道ということで「日光御成道」と称され、幕府の道中奉行の管轄となった。

この社参に当初日光街道を利用したが、この道路が泥濘となり道路状況が悪かったこともあり、高台を走る鎌倉街道中道（日光御成道）が選ばれたという。

御成道のルートは中山道の本郷追分を起点として、岩淵宿・荒川・川口・鳩ヶ谷・大門・岩槻を経て、幸手で日光街道と合流する。この道のりは約 12 里 30 丁（約 43 km）であった。

徳川の歴代将軍が最初に社参を行ったのは、元和 3 年（1617 年）二代将軍徳川秀忠のときという。秀忠の最初の社参は日光街道を通して越谷から岩槻城で宿泊し日光御成道を使って幸手から日光街道で社参したという（wikipedia 日光御成道より）。その後三代将軍徳川家光のときに、社参に際して将軍一行が通る特別な道路として整備されたのである。

「日光御成道」という名称が幕府の公式文書に記された例は、時代が下り天明 5 年（1785 年）以降である（wikipedia 日光御成道より）。

大門宿は元禄 13 年（1700 年）「岩槻藩領から幕府領に編成替えとなった際に宿場に認定された」本陣・問屋に会田平左衛門が任ぜられた。その他の本陣は「川口宿が永瀬文左衛門、鳩ヶ谷宿が船戸八郎右衛門、岩槻宿が斎藤斧七郎」に任命された。

	年代	社参者	往 路	帰 路
1	1617 元和 3 年	二代秀忠	4/12 岩槻泊～4/14 古河泊	4/20 日光山登～4/22 江戸着
2	1619 元和 5 年	同	10/13 岩槻泊～10/14 古河泊	10/19 古河泊～10/20 岩槻泊
3	1622 元和 8 年	同	4/12 岩槻泊～4/13 古河泊	4/19 壬生泊～4/20 岩槻泊
4	1623 元和 9 年	大納言家光	4/13 江戸登～4/16 日光山登	4/19 日光山登～4/22 江戸着
5	1625 寛永 2 年	三代家光	7/13 江戸登～	7/20 江戸着
6	1628 寛永 5 年	大御所秀忠	4/13 江戸登～4/15 宇都宮泊	4/19 日光山登～4/20 江戸着
7	同	三代家光	4/22 岩槻泊～4/23 壬生泊	4/28 日光山登～5/1 江戸着
8	1629 寛永 6 年	同	4/13 岩槻泊～4/14 古河泊	4/18 日光山登～4/21 江戸着
9	1632 寛永 9 年	同	4/13 岩槻泊～4/14 古河泊	4/20 古河観音寺昼食～4/21 江戸着
10	1634 寛永 11 年	同	9/13 岩槻泊～9/14 古河泊	9/18 古河泊～9/19 岩槻泊
11	1636 寛永 13 年	同	4/13 岩槻泊～4/14 古河泊	4/20 壬生泊～4/21 岩槻泊
12	1640 寛永 17 年	同	4/13 岩槻泊～ 4/14 幸手昼食・古河泊	4/20 壬生泊～4/21 岩槻泊
13	1642 寛永 19 年	同	4/13 岩槻泊～4/14 古河泊	4/20 古河泊～ 4/21 幸手聖福寺昼食・岩槻泊
14	1649 慶安元年	同	4/13 岩槻泊～ 4/14 幸手昼食・古河泊	4/21 壬生泊～4/22 岩槻泊
15	1649 慶安 2 年	大納言家綱	4/12 岩槻泊～ 4/13 (鹿島・杉戸休憩) 幸手昼食・古河泊	4/21 幸手泊～ 4/22 (杉戸・鹿島休憩) 岩槻・越谷泊
16	1663 寛文 3 年	四代家綱	4/12 岩槻泊～ 4/14 幸手休息・古河泊	4/22 古河泊～ 4/23 幸手休憩・岩槻泊
17	1728 享保 13 年	八代吉宗	4/13 岩槻泊～ 4/14 幸手聖福寺昼食・古河泊	4/19 古河泊～ 4/20 幸手聖福寺昼食・岩槻泊
18	1770 安永 5 年	一〇代家治	4/12 岩槻泊～ 4/14 鹿島宝国寺休憩・幸手聖福寺 昼食・栗橋堤上休憩・古河泊	4/19 古河泊～ 4/20 栗橋堤上休憩・幸手聖福寺 昼食・鹿島宝国寺休憩・岩槻泊
19	1843 天保 14 年	一二代家慶	4/13 岩槻泊～ 4/14 慈恵寺・鹿島宝国寺・久米原で 休憩・幸手聖福寺昼食・栗橋休憩 古河泊	4/19 古河泊～ 4/20 幸手聖福寺昼食・岩槻泊

宮代町立図書館 HP より

大門宿本陣表門は、元禄 7 年（1694 年）に創建されたので、日光御成道は寛永期（1624-1644 年）以降、社参で通行に際し利用され

ているので、本陣として役目を果たしながら見続けたことになる。その歴代将軍の社参は、表の通りである。

元禄 7 年以降の社参は享保 13 年（1728 年）八代吉宗、安永 5 年（1776 年）十代家治、最後に天保 14 年（1843 年）十二代家慶が最後の社参となっていることから 3 回大門宿本陣表門（長屋門）は遭遇したことになる。

一方大門宿本陣は、紀州鷹場で鳥見に任じられたのは会田家で拝領が寛永十年（1633 年）である。初期の紀州鷹場時代に會田家は御本陣の呼称で呼んでいた、この年代から考えると先の日光御成道を家光が寛永 11



↑ 大門宿本陣表門前の旧日光御成道

年（1634 年）に社参していることから見ると、大門宿本陣としては全 19 回の内 207 年間 10 回に亘って徳川将軍の社参に遭遇していることになる。

社参のエピソードだが、10 代家治の社参では、行列の先頭が日光にあるとき、最後尾はまだ江戸にあったとも言われている。これほどの大事業を成し遂げることは、徳川家の権威を大名から庶民に至るまで広く知らしめる効果が絶大であったが、要する経費も膨大であり、4 代家綱の後に幕府財政が悪化する社参は少なくなっていた。また、近在の農村にも人馬徴発が課されたが、日光社参の時期は農繁期に重なることが多く、大きな負担になっていた。（将軍の・・・から、日光社参ウィキペディアより）

ところで日光御成道を利用した最初の将軍は誰だろう？

①元和 3 年（1617 年）二代目将軍徳川秀忠のときというが、岩槻から幸手の道程であったという※1。

②元和五年（1619）10 月に、「秀忠は、大門宿を通行 初めての御成道経由」とある。『日光御成道と大門宿』日光御成道美園大門宿まつり実行委員会

③二代将軍秀忠は元和 8 年（1622 年）の 3 回目から御成道を通るようになった。（さいたま市の歴史と文化を知る本青木義脩著）、

④三代目将軍徳川家光寛永 2 年（1625 年）のときに、将軍一行が通る特別な道路」、となっている※1。

⑤三代将軍家光は寛永 17 年（1640 年）に御成道を通行していると思われる。『浦和市史 通史編 2』で（『徳川実紀』に記録あり）及び

（岩槻 城と町まちの歴史 p 205）。

⑥第十七回以降はおおむね大門宿を通過しての道程と思われる。

『日光御成道大門宿』会田熊雄／[ほか]執筆

⑦享保社参以前（1776 年）は大門宿を通行しなかったと考えられるのである。『日光御成道の成立について』杉山正司

・享保社参以前は、戸塚から貝殻坂を下り釣上、笹久保を経て林道口から岩槻へ入る道が当初のルートであったと考えられるのである。

『埼玉県立博物館紀要 11』

などいろいろな説がある。

終

※1 Wikipedia 日光御成道より「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1980, p. 662 が出典